

森町を語る会

2018

町民との対話で進めるまちづくり



西幸町町内会・森町を語る会のようす (西幸町公民館)

住民意見を今後のまちづくりに反映

町民との対話による町政運営を目指す太田康雄町長は就任以来、「町長と語る会」を町内6地区で開催してきました。今年度は形を変え、開催を希望する町内会に出向き、太田町長と町職員が地域の皆さんとより身近で語り合う「森町を語る会」を開催しています。申し込みのあった8会場15町内のうち7会場を実施し、地域課題の解決や活性化策のほか、これからの森町について活発な意見交換を行いました。

フリートークで意見交換

各会場では、フリートーク形式で地域の皆さんから貴重な意見・提案を伺いました。町では、町民の皆さんからいただいたご意見を十分に検討するとともに、今後の町政運営の参考とさせていただきます。

「みんなで語ろう！森町の未来」をテーマに開催した町の広聴事業「森町を語る会」。今月は7会場(南町、向天方下、問詰、西幸町、若宮、大上橋・薄場、大河内)の概要を紹介します。

■問い合わせ先 役場企画財政課広報統計係 085-63306

町内会 8月28日開催
南町 南町公民館
参加者 39名

問 南町地区内の都市公園(駅東公園・北見公園)は町管理であるため、雑草等が生い茂っていても住民は手を出しにくい。地域の住民でも草刈りや花植えなどを行えるようにすれば、快適な住環境を官民協働で実現できるのではないかと？

答 公園については、予算の範囲内で草刈りを年に2〜4回、樹木の剪定を年1回程度で実施している。夏場は2〜3ヶ月で雑草が生い茂り、これで充分とは町も考えていない。町の管理が及ばない時期に、地域の皆さんで公園の管理をしていただければ大変ありがたい。南町では、これまでも「南町ボランティアクラブ」が「協働のまちづくり推進事業」で堤防の桜の枝切りなどの環境

美化に努めていただいている。公園の管理についても同じような形で取り組んでもらえば、町としても補助金交付という形で協力させていただきたい。

問 南町地区内では、周辺企業による事業規模の拡大が相次ぎ、物流関係の大型トラックの出入りや、通勤車両の通行量が増えた。町内に企業が増えてうれしい反面、道路は狭く、南町交差点は右折車線がないために、通勤時間帯に後続車が詰まってしまふ。企業側も配慮して迂回してくれているが、細い道で交通量が多いのは心配。

答 南町交差点は、県道掛川天竜線と町道が交差しており、特に県道の交通量が朝の通勤時間帯に多く、右折で渋滞が発生している。町でも承知しており、県道の交差点改良であるために県に対して要望している。要望すればすぐにやってくれるものではないが、



南町町内会の皆さん (南町公民館)

今後も引き続き、要望を続けていきたい。

問 自主防災資機材のうち、例えば水機については薬品も古くて使い物にならない。実際に役立つ資機材の配布をお願いしたい。また、町内会だけで防災資機材を購入する場合は、費用を補助してもらえないか？

答 水機は、平成2年頃に23町内会と、希望する町内会に配備した。消耗品や薬品は、各町内会で更新をお願いしている

が、不用であれば引き取らせていただく。自主防災資機材については、現在は町で購入したものを各町内会に配布しているが、必要な災害備品はそれぞれ違うということで、各町内会が用意した備品に対して補助ができないか研究を行っている。予算にも関わることであり、現在検討中である。

その他の意見(抜粋)

● 駅東公園・北見公園には公園の銘板が無いので、設置してほしい。

● 町道新田下宿線(大浜線)ガード下から吉田商店の区間は、複数の事業所が立ち並ぶなど交通量が多い。小・中学生の通学路であるため、速度規制やスクールゾーン設置などの対策を！

● 都市計画道路新田下宿線の都市計画決定の変更をしてほしい(昭和45年の計画決定当初から何も進展していないが、近隣住民の土地には建築制限がかかり、自由に家が建てられないため)

向天方下町内会 8月30日開催
向天方下公民館
参加者 39名

問 (株)サラダクラブ(第一幸治橋までの町道は道幅が狭く、保育園の送迎車や大型トラックなどのすれ違いが困難。町議会で道路拡幅工事の請願が承認されたが、具体的な工事概要(内容・期間など)を説明してほしい。

答 本路線は、向天方上・下両町内会から同地区の主要道路であるので整備をお願いしたいとの要望があり、平成18年度から少しずつ拡幅を進めている。拡幅完了区間から第二幸治橋までの道路幅員は一番狭いところで約3.5メートル。道路拡幅工事には、多額の費用が必要であり、測量設計まで含めると4〜5年の事業になる。また、用地買収を伴うために地権者の了解と地元の合意がまず必要となり、企業や保育園保護者にも協力をお願いしないといけない。さまざまな合意形成がなされた上で事業着手になるので、時間と手間がかかることはご理解いただきたい。町の全体

予算・財政状況を見ながら今後の事業を進めていく。

問 全国的には7件に1件が空き家であり、向天方でも管理上の問題がある空き家が多い。空き家バンクに登録できないような廃屋を何とかするのが一番の課題では？地域で困っている空き家の対処法は？

答 空き家は個人の財産だから管理をしてもらうのが原則。空家対策等特措法により「特定空家」に認定して法的に処理をする形もあるが、それは最終手段。町が強制代行という形で撤去を行っても、所有者が費用を払わない場合は、町の負担になる。周囲に危険を及ぼす空き家については、町からも所有者に対応を呼びかけているが、近隣住民からお願いの方が効果的な場合もある。

問 水害や土砂災害を含めて避難警告はどういう基準で出されるのか？災害発生時の避難指示や避難場所、避難経路等災害が発生した後の住民の生活をどのように守るのか教えてほしい。

答 森地区(新町地区)と天田川の水位計があり、140cmを超えたら消防団が待機。190cmを超えたら氾濫注意水位。さらに水位が超えていぎような場合に避難勧告・指示を出す。避難勧告や指示に目安はあるが、気象状況を総合的に見て危険と判断したら避難勧告等を出す。

問 向天方の避難場所は森町アリーナだが、緊急の一時避難先として、森町宮グラウンドを使ってもよいか？

答 命に関わる場合は一時的に緊急避難所として利用しても構わないが、時間が経てば指定避難所に避難してい



向天方上・下町内会の皆さん (向天方下公民館)



各会場で地域の皆さんと積極的に意見を交わす太田町長

ただ、災害発生後、町営グラウンドは、仮設住宅用地や自衛隊の宿営地にも使用する計画があるため、ご理解をいただきたい。

その他の意見（抜粋）

- 天森橋歩道橋の塗装について、早く対応してほしい。
- 文化会館の施設利用は、基本使用料を前納し、エアコン等は使用後に請求されるので支払いに手間がかかる。
- 役場の窓口の中には、一回の手続きで申請書を何種類も書かされる場合がある。改善してほしい。
- 小中学校の普通教室へのエアコン設置の考えは？
- 小中学校の統廃合について報道があったが通学方法はどうか？

9月20日開催
西幸町公民館
参加者 30名

問

西幸町ではいち早く下水道整備が行われたが舗装状態が悪く、継ぎはぎだらけの道路になっている。道路の側溝には、段差や凹みがあるためかなり危険。今後3年間にわたって水道管の更新が行われるので、この機会に道路の全面舗装をしたらどうか？

答

西幸町の下水道工事は、平成17年～19年にかけて下水道管を埋設し、掘削した部分を舗装した。平成13年のガスの埋設時と同様に掘削部分の舗装をやり直したため、継ぎ目の多い舗装となっている。道路舗装の耐用年数は20～30年とされているため、全ての舗装をやり直すことは難しいが、今年度から3年間をかけて水道管を更新していくので、その中で特に痛みがひどい箇所については、町内会と相談しながら対応していきたい。経年劣化や段差がある側溝については承知をしており、計画的に更新を進めさせていただいているが、一度に

9月14日開催
上問詰公民館
参加者 54名

問

天方地区でも高齢化が進んでいるが、免許返納後の高齢者の生活の足について、町では対策を考えているか？

答

町では、免許証を自主返納した際に発行できる運転経歴証明書の手数料1,100円を助成している。運転経歴証明書があれば、65歳以上の人が県内のタクシーに乗る場合はタクシー運賃が1割引になる。また、「袋井ファミリーサポートセンター」に登録していただくと、協力が買物や通院の付き添いなどトータルな支援をしてくれる。現在、町では移動支援担い手養成講座（仮称）を計画。ボランティア



西幸町町内会・森町を語る会のようす（西幸町公民館）

問

西幸町には空き家が数多くあるが、なるべく空き家を作らず、若い人に住んでもらって町内の活性化を図りたい。森町全体でも空き家は増えているが、どうしたら空き家を減らせるのか？

答

町では、町内の移住定住促進を図るため、昨年度に「空き家・空き地バンク」を開設した（詳細は12ページ参照）。運用実績は、昨年度が申込み7件で登録1件、今年度は申込み5件で登録4件となっている。町への移住相談者は年々増えてお

アで運転してくれる移動支援サポーターを養成し、地域においてお互いに助け合うような制度となるよう検討していきたい。

問

森町の小中学校再編について、子供たちの教育環境は実際にどうなるのか？（学校が無くなるのは地域にとって死活問題、保護者の意見を再度聞いてほしい、時間をかけて議論を進めるべき、大人数での生活は高校からでは遅いのか、三倉・天方小による段階的な合併はどうか、など多数）

答

6月の総合教育会議で教育委員会から提案され、町長として同感したのは「児童・生徒の人間としての成長に重点をおいて再編を考えていく」というものであった。喫緊の課題として、三倉小・天方小を統合しただけでは、複式学級を解消することはできず、学校の本来あるべき姿を求めていく必要がある。泉陽中を森中へ、三倉・天方小を森小へ統合するのは、喫緊の課題を解決するための第1段階。そこで検討が終わるわけではなく、将来的には中学校を1つにすることを視野に

り、その際にも同バンクを紹介している。登録物件が少ないとうまくマッチングしていかないため、まずは所有者の皆さんに登録してもらうことが必要。森町空き家・空き地バンクが空き家所有者・移住希望者の双方にとって有効な手段であることをPRしていきたい。

問

西幸町は、多くの世帯が三世目となっているが、新たに住宅を建てる土地や住宅がない。森山団地から遠州森町PA側にかけて、新たな住宅用地を造成し、三世代が同じ町内会に住んでいけるようにしたらどうか？

答

宅地造成は、行政が行うものがある。天宮土地区画整理事業は平成9年から10年計画で実施したが、事業着手から組合解散までに20年の歳月を要した。区画が売れる見込があれば、民間事業者でも造成が可能になると考えられるが、民間が参入するには町に魅力が必要となってくる。まずは、現在の空き家や空いた土地の活用を進めることが現実的であると考える。

入れ、小中一貫校など様々な方法を検討していかなければならない。課題・問題はたくさんある。解決できるものは解決し、できないとしても問題・影響を小さくしていくという努力をこれからも続けていく。喫緊の課題がある以上、子どもたちの人間としての成長に一番の重きを置いて、今後も検討を続けていきたい。

問

アクティ森は天方地区のシンボルであり、地域住民として、未永い存続と活性化を望んでいるが、町では現状をどのように考えているか？

答

アクティ森は、森町の重要な観光拠点であるが、平成3年の開業から25年が経過し、施設の老朽化や体験客の減少が続いている。年間を通じて誘客できる施設にするためには、新たな魅力づくりが必要であり、天候に左右されないレストランには、地元出身のシェフを招いて力を入れている。今年度は、アクティ森を舞台として森町全体をPRしていくために、共同通信デジタルから提案を受けて、新しい取り組みを

その他の意見（抜粋）

- 森山団地に通じる町道（赤道）があり、住民が草刈りや掃除をしているが、町で管理してほしい。
- 7月の台風で避難所が開設されたが、開設が遅く危険を感じた。晴天時から避難準備等の情報を出し、早期避難を可能にするべき。
- 幼稚園に洋式トイレが一つしかなく困っている。
- 移住希望者は土日に多く来町されると思うが、対応はどうしているか？

9月21日開催
若宮公民館
参加者 44名

問

県の第3次被害想定に「延焼危険度」のランク5に指定されているが、進入路が1本しかなく、緊急車両の通行が確保できるのか不安。延焼防止や避難経路確保のために、当町内会につながる新たな進入路を開設してほしい。

進めていく予定である。

その他の意見（抜粋）

- 学校統合の場合は、校名や校歌は一新してほしい。
- 小中一貫校を検討するのなら、町の北部地域に学校を作ってもらいたい。
- 統合は反対。教育面だけでなく、地域のことでも考えて再度検討してほしい。
- 吉川の自然環境が維持できなければ隣接するアクティ森の魅力も半減する。
- 太田川ダム完成後の水質変化は実際にあるのか？



問詰町内会・森町を語る会のようす（上問詰公民館）

答

若宮の進入路は1本しかないとのこと意見をいただいたが、別の進入路として、若宮から中飯田公民館につながる町道を平成7年から14年にかけて整備している。広い道ではないが、消防署森分署のポンプ車ならば中飯田公民館から進入して消火活動が可能である。したがって、車両が通行可能な進入路は現状でも2路線であると認識している。また、徒歩での避難ルートは3路線確保されている。有事の際はこれらのルートを活用してどう行う行動をとりたいのか、町内会で話し合っていたらどうかと考えている。

問

初期消火への対応として、町内に消火器やホースを設置してほしい。

答

消火器は、家庭内での初期消火の場合は有効だが、建物火災が発生しているときに消火器で屋外から消すのは、一般人には危険だと考えている。初期消火への対策としては、以前から町内会長さんと消火栓付近に「消火栓ホース格納箱」を設置しようとして協議をしている。今年度中に設置できるように準備を進めたい。

その他の意見(抜粋)
 ●森町でも空き家・空き地が多くなっているため、以下3点を提案する。①空き

問 9月23日の朝日新聞の第一面に、北海道下川町の「まち再生へ森林フル活用」という記事が掲載された。森町も森林が多いので、この豊かな地域資源を活用して、木質バイオマス発電・小水力発電など小さな会社でも起業しやすい仕組みを考えたかどうか。山を利用した地域活性化については是非検討してほしい。

答 森町の面積の約7割は森林であり、この資源を上手に活用することは、森町の特性を活かすことでもある。平成31年度から森林対策のための地方財源となる「森林環境譲与税(仮称)」が導入される予定である。森町にも配分されるので、この財源をいかに上手く使うかが課題となる。さまざまなことに視野を広げながら、森林資源の可能性について検討していきたい。

答 人口減少や高齢化は大河内に限らず、森町全体が抱える問題である。森町は「日本の高齢化の一番先を行っている」と医療・介護の現場で話題になるが、森町の姿が日本

問 世帯数30戸、人口70人の大河内町内会は65歳以上が54%、5年後には66%以上となる。今後、小中学校が統合されると若い人の流出がさらに進み、10〜20年後先が不安。このままでは、いずれ廃村となる。大河内を存続させるための知恵をお借りしたい。

答 家を売買することで何か特典が得られるような補助金を創設できないか?②空き家の活用について行政との橋渡しを行う専門家集団(宅建業者・価格調査士など)の立ち上げに町が協力したらどうか?③磐田市のように、空き家の解体に最大50万円の補助を出したらどうか?

答 町営バスの大河内線は、地域の皆さんの生活の足として今後も運行を維持していきたいと考えている。現在は、大河内線と秋葉線の乗り

問 子どものがいなくなると現在のバス路線は廃止になるのか?また、現在のバス停では待つ場所がない。

答 は、地域の皆さんの生活の足として今後も運行を維持していきたいと考えている。現在は、大河内線と秋葉線の乗り



大河内町内会のみなさん(大河内林業センター)

問 大河内簡易水道は、あり、私たちも高齢化してきて見回りが大変。自然流下式でなく、ポンプアップで管理がしやすい簡易水道を整備してほしい。良い施設ができれば、組単位や個人で水道を引いている人も仲間に入りたいたいと聞いている。

答 大河内・三倉・大久保の簡易水道のほか、もっと小規模な水道がたくさんあって、根本的に何とかしなければならぬことは充分承知している。ただし、簡易水道の整備を料金収入として水道料金の中でやれるかという点、なかなか大変なことである。国で「地方創生」と言っているからには、そういったところも国の方で助けていただきたい。地元国会議員を通じて、地域の切実な声を国に届けていく必要があると考えている。我々も努力するので、地元皆さんもご協力をお願いしたい。

問 大河内簡易水道は、あり、私たちも高齢化してきて見回りが大変。自然流下式でなく、ポンプアップで管理がしやすい簡易水道を整備してほしい。良い施設ができれば、組単位や個人で水道を引いている人も仲間に入りたいたいと聞いている。

「森町を語る会」の開催については、各町内会長をはじめ、地域の皆さんにご協力をいただき、大変ありがとうございました。

その他の意見(抜粋)
 ●車が運転できない高齢者でもインターネットがあれば買い物ができるので、光回線などのインフラ整備を検討してほしい。
 ●昨年の冬は簡易水道のパイプが凍結して水を運んでもらえたが、毎年運んでもらえるのか?
 ●先日の火災では通報から消防車の到着まで30分かった。40t耐震性防火水槽と水道水のタンクを併用で作ることはできるのか?
 ●後継者がいないと多額の事業資金を借りるのが不安。過疎地域・中山間地域で農業などを行う際の小口融資や、補助制度があるかどうか教えてほしい。



若宮町内会のみなさん(若宮公民館)

問 若宮町内会では民生委員が主体となり、62世帯のうち18世帯の高齢者を「避難行動要支援者(1人暮らしで要介護度3以上)」として名簿に登録している。自力で避難できない世帯が全体の3分の1を占め、昼間は仕事で留守という家庭が多い地域では、日頃からどのような対策をすればよいか?

答 森町全体で高齢化が進む中、要支援者に対する支援を出来る人が少ないことは他の町内会からも聞いている。支援を必要とする人が明確になっていないと、避難が遅れる可能性がある。町では各町内会長や民生委員に依頼し、要支援者台帳を作成している。今後も高齢化はさらに進んでいくため、各地域でも、日頃からの声かけや見守り活動をお願いしたい。町では「避難準備情報」と「高齢者等避難開始」として、災害が起きる前にお知らせするので、早めに対応することで人的被害を未然に防ぐというのを考えていただきたい。

問 7月の台風21号では森町として初めて「避難準備情報・高齢者等避難開始」が出された。私たちの指定避難所は飯田小だが、今回は飯田防災センターのみが避難所として開設された。なぜか?

問 橋・薄場でゴミの不法投棄が増えている。不法投棄や犯罪の抑止策として、防犯カメラを設置したい。防犯灯同様に防犯カメラ設置の補助事業を創設してほしい。

答 各町内会ごとに指定している避難所は大規模地震を想定して設定したものである。今回のケースは、「どこで被害が起きるか分からないため、避難に時間がかかる人はあらかじめ逃げたておいてください」というご案内のもと、各地域ごとに1箇所を指定して避難所を開設し、避難準備情報を出

問 道路の舗装について、各町内会から要望をいただいております。建設課で現場を見ながら傷みの激しい箇所

答 は、犯罪の抑止力となる効果的な設置方法や、どこにどれだけ設置するかなど考えなければならぬ課題がある。県内で防犯カメラ設置の補助を行っているところは3市。実際に補助制度を設けている自治体を参考に、町の負担割合なども検討する必要がある。防犯カメラは犯罪を未然に防ぐというメリットがある反面、プライバシーを監視されてしまうと感じる町民もいるため配慮が必要。今後、防犯カメラ設置に関する町内会からの要望が多ければ、補助制度を検討していきたい。



大上・橋・薄場町内会のみなさん(大上公会堂)